

けあき

医療の原点は思いやり

2020
SEPTEMBER

3



特集

地域唯一の周産期母子医療センター



健康を守り続けるセンター

赤ちゃんとお母さんの

産婦人科と小児科が連携し高い専門性を発揮

磐田市立総合病院は2007年、県から地域周産期母子医療センターに指定され、2010年、周産期母子医療センター棟を開設。中東遠地域唯一のセンターとして、産婦人科と小児科が連携し、地域の赤ちゃんとお母さんの健康を守っ

てきました。これまでに当センターを巣立った赤ちゃんは約9,000人。これからも地域の赤ちゃんとお母さんに寄り添った医療を提供してまいります。

妊娠中から出産後までトータルで支援

周産期母子医療センターは、出産の前後に危険を伴う可能性がある赤ちゃんとお母さんを受け入れる専門施設です。当センターは、おおむね妊娠32週以降、体重1500g以上の児を受け入れています。NICU(新生児特定集中治療室)6床、GCU(回復治療室)6床のほか、帝王切開に対応できる分娩室、LDR(陣痛分娩産褥回復部屋)も完備し、24時間体制

で赤ちゃんの状態に合わせたケアや治療を行っています。

産婦人科分野は、周産期専門医・指導医や産婦人科医をはじめアドバンス助産師12名、助産師15名、看護師25名などが在籍。12年からは、当センターと産婦人科外来を一元化し、助産師や看護師が、妊娠中から出産後まで継続してお手伝いできる体制を整えました。また、専任の臨床心理士

が不安解消のお手伝いをしています。

小児科との連携は、週1回の周産期カンファレンスで情報を共有し、出産前から共同で治療計画を立てています。開業医の先生方とも定期的に会合をもち、連携を深めています。救急母体搬送だけでなく、出産前の相談も受けるなど、当院以外の妊産婦も支えています。

赤ちゃんの誕生は、素晴らしいことで、その喜びをみんなが味わえるよう、周産期医療を充実させてまいります。



周産期母子医療センター長
兼 産婦人科部長

徳永 直樹

退院後も成長を見守り続けます

小児科分野は後期研修医3名を含む常勤医9名が在籍しています。すべての新生児の出生時と退院時の診察を小児科医が担当。助産師、看護師と協力し、疾患の早期発見、治療や支援を始められるメリットを実感しています。中東遠地域の他の医療機関で出生した新生児管理が必要な早産低出生体重児、呼吸障害、低血糖や感染症、黄疸などの赤ちゃんの搬送症例も含め、年間200例以上の新生児治療にあたっています。

ハイリスク分娩には小児科医も立ち会い、出生直後から治療を開始します。NICUを退院後も地域と連携しながら、発育・発達を丁寧にフォローアップし、子育てを支援しています。合併症がある場合には成人になっても継続して見守る

ケースもあります。

これからも今までと変わらず地域の周産期医療を支える役割を果たしていきたいと思えます。



同副センター長
兼 小児科部長

白井 眞美



臨床心理士

妊娠中や産後の気持ちをうかがい、赤ちゃんの成長発達を一緒に見守りながら、親子の出会いを支えるお手伝いをしています。母親教室やほっとサロンでは、「周産期のこころ」を担当し、皆さまと顔の見える関係を大事にしています。



理学療法士

小さく生まれた赤ちゃんの発達や家族をサポートしています。入院中は赤ちゃんが落ち着きやすい姿勢作りや発達を促す体操を行い、退院後は定期的な発達のフォローと、成長に合わせた遊び方や関わり方を紹介しています。



助産外来

助産外来は、助産師が行う健診です。診察とともに、妊娠中の生活や身体の変化、出産、育児について相談に乗ります。お母さんと赤ちゃんの安全を守るため医師と協力体制をとり、安心して出産・育児ができるよう支援しています。

下肢静脈瘤の新しい治療 グルー治療をご存知ですか

血管外科 科長 齊藤貴明



グルー治療にあたる
血管外科チーム

グルー治療に使用する
カテーテル器具



これまでの下肢静脈瘤の治療

治療は大きく分けて、保存的治療と手術治療があります。保存的治療とは弾性ストッキング着用のことで、拡張した静脈を圧迫することで症状を軽減する治療法です。一方、手術治療では従来の逆流・不全となった静脈を手術で抜去するという静脈抜去手術（ストリッピング手術）とカテーテルを用いた血管内治療で逆流・不全となった静脈内を焼灼することで血流を止める血管内焼灼術が行われています。血管内焼灼術では創が少ないのが特徴的ですが、皮膚などに熱損傷を起こす危険性があるため、患部静脈の周囲に液体を注射する必要があります。

グルー治療の特色

グルーとは接着剤の意味で、静脈に医療用瞬間接着剤を注入し圧迫することで静脈をふさぐ血管内治療です。熱を使用しないため、患部静脈の周囲に液体を注射する必要はありません。術後の痛みが少ないと言われており、2019年12月に保険が適用されました。

最後に

当院でも新しい下肢静脈瘤治療を取り入れ、今後も患者さんに＜納得のいく診察＞、＜丁寧な説明＞、＜ニーズに沿った治療＞を提供させていただきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。



血管外科 科長 齊藤 貴明

浜松医科大学 卒業年 平成15年

認定資格

- ・日本外科学会専門医
- ・日本血管外科学会認定血管内治療医
- ・三学会構成心臓血管外科専門医機構専門医
- ・日本脈管学会専門医
- ・腹部ステントグラフト指導医
- ・浅大腿動脈ステントグラフト実施医
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医

血管診療技師Clinical vascular technologist(CVT)は、動脈硬化や下肢静脈瘤、糖尿病性壊疽、エコミークラス症候群などに代表される血管疾患の診療に欠かせない、高い専門性知識と技術を有するコメディカルの専門資格です。「日本血管外科学会」「日本脈管学会」「日本静脈学会」「日本動脈硬化学会」の4学会で構成する「血管診療技師認定機構」が認定する資格で、当院生理機能検査室(27番)には3名のCVTが在籍しています。

血管超音波検査(頸動脈や四肢動脈・静脈の評価)、PWV/ABI(血管の硬さや詰まりを調べる検査)、経皮的酸素分圧検査(皮膚レベルでの酸素量を調べる検査)等の検査をしたり、血管検査に携わる技師に知識や技術を教育する役割があります。

患者さんに安心して検査を受けていただけるような説明と、常に高い精度で迅速に検査ができるよう心掛けています。生理機能検査室スタッフ一丸となり、より質の高い検査を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



認定資格を取得している3名の臨床検査技師

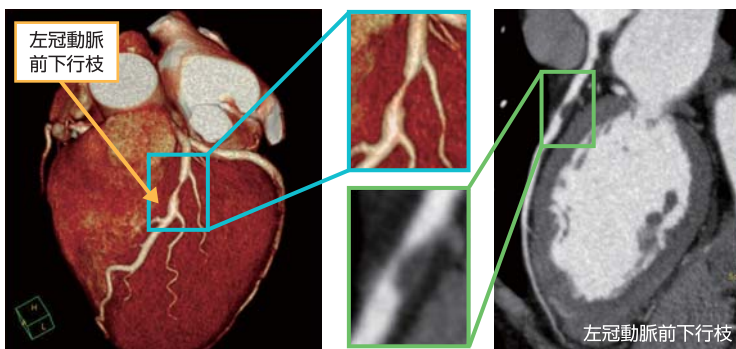
解説! 心臓CTのおはなし

Q どのような検査?

A 造影剤を腕の静脈から注射し、CT装置で撮影します。コンピューターを使い、心臓の画像を立体的にいろいろな方向から観察し、冠動脈や心臓全体の状態を詳しく検査します。当院のCT装置には被ばくを少なくする技術が搭載されており、低被ばくで高品質な検査を行うことができます。



高性能CT装置



左冠動脈前下行枝の一部が細くなっています

当院健診センターでの健康診断でも受けられる検査です。
詳しくはホームページをご覧ください。

Q 何がわかるの?

A 冠動脈と呼ばれる心臓に酸素と栄養を送る血管の状態や、心臓全体の状態を詳しく見ることができます。冠動脈の一部が狭くなることにより起きる狭心症や、つまることにより起きる心筋梗塞などを発見できます。

Q 検査時間はどのくらい?

A 30分程度です。(着替え、検査の説明、血圧測定などを含む)撮影時の息を止める時間は5~7秒程度です。
入院は必要ありません。

手術センター—看護師

当院手術センターは2019年度、4988症例を担当しました。医師、看護師以外に臨床工学技士、診療放射線技師、医療事務、物品管理専任スタッフ、洗浄・清掃外部委託業者がともに業務に励んでいます。

当センター看護師の役割は、主に「器械出し看護」と「外回り看護」の2つです。器械出し看護は、手術の状況を見ながら執刀医が必要とする器械(器具)を素早く、かつ正確に手渡し、手術を直接的にサポートします。外回り看護は器械出し以外の手術に関する看護業務全般のことで、医療機器の準備や温度調整、患者さんの体位変換や全身状態の確認、手術の記録などを行っています。



患者さんの手術の不安を軽減する術前訪問



「優しさにあふれた看護」を学ぶ新人看護師

当センター看護師は、手術を受ける患者さんの不安に寄り添えるよう、術前訪問を行っています。入室からの流れをイメージしやすいように、写真を使って説明したり、安全・安心に手術を受けていただけるように、アレルギーなどの情報をうかがっています。手術について心配なことがありましたら、遠慮なくお伝えください。

本年度、当院手術センターには15年ぶりに2名の新人看護師が配属されました。毎日緊張しながらも、知識・技術を身に付けようと一生懸命頑張っています。手術センタースタッフ全員で新人を育てるという意識を持ち、毎日指導にあたっています。



手術看護認定看護師 萩原 義久

手術看護という分野は、手術を受ける方がその意思決定をした瞬間から退院していくまでの間、手術に関係した不安や悩みを聞きながら、安全で安心な手術を受けられるようお手伝いをする分野です。私たちが関わることで、手術に対して前向きに立ち向かうことができ、手術の後にちょっとした笑顔や安堵の表情をしていただけたら良いなと考えながら、日々、手術を受ける方達やそのご家族と向き合っています。

手術センター看護師と関わる時間は短いですが、「思いやりの心」を持って、安全・安心に手術が終えられるようにお手伝いさせていただきます。

院内日記

磐田市立総合病院ニュース

磐田市立豊田中学校で出前講座を開催

6月24日、磐田市立豊田中学校で出前講座を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で中断しており、今年度初の実施。体育館に集まった3年生136名は間隔を開けて座り、ソーシャル・ディスタンスを心掛けての開催となりました。

今回の講師は薬剤部長の正木銀三薬剤師、テーマは「薬学講座(大麻・覚せい剤から自分を守る)」です。静岡県では最近、若者を中心とした危険ドラッグの使用が問題となっています。本講座では危険ドラッグの種類や薬物乱用の危険性、特に薬物依存症のメカニズムや怖さなどを中心に講演し、「ストップ危険薬物」の啓発に努めました。生徒さんたちの真剣にメモをとりながら聞いている姿が印象的でした。



NCPR(新生児蘇生法講習会)を開催しました

NCPRは、日本周産期・新生児医学会が進める講習会で、出生時に呼吸や循環に助けが必要な新生児への対応を学ぶコースです。当院では、周産期母子医療センターに所属するすべてのスタッフが受講し、出産の介助や新生児のケアにあたっています。また、インストラクター資格を持つスタッフも複数名在籍しています。スタッフ全員が知識と技術を磨き、お母さんと新しい命を守るために全力を尽くしています。



けやきの木の下で ~ちょっと役立つ話

おくすり余っていませんか? ● 薬剤部長: 正木銀三

医師から処方された薬を飲み残して、家にたくさん余っていませんか?

飲み忘れや自己判断による中断のほか、薬の種類が多過ぎて適切な服用ができなくなっている場合など、薬が余る理由はさまざまです。中には、薬を飲んでいないことを医師には言わず、症状が改善しないために新たな薬を処方し、薬がさらに増えていく悪循環に陥ることもあります。

飲み残しなどで余った薬を「残薬」と呼び、75歳以上の高齢者だけに限っても年間475億円以上の残薬による医療費の無駄が生じています。医療費節約のためだけでなく、飲み間違いの危険を減らして、適切な治療につなげていくためにも、残薬をなくすことが大切です。

飲み忘れてしまうのは、薬を飲むタイミングが仕事や生活と合わないからかもしれません。かかりつけの薬局があれば、薬剤師が医師と相談して飲みやすい薬や回数の変更などの提案ができます。お薬手帳や身近な薬剤師を活用し、安心できる薬の服用を心がけてください。●



作ってみよう!

ハッピー レシピ

NO.3

1人前当たり

エネルギー	46kcal	脂質	3.2g
炭水化物	2.2g	食物繊維	1.8g
たんぱく質	1.4g	食塩相当量	0.4g

材料 4食分

- ・きのこ …………… 200g程度
(お好きな種類:今回はエリンギ、しめじ、まいたけ)
- ・油 …………… 大さじ1 (12g)
- ・塩 …………… ひとつまみ (0.5g程度)
- ・唐辛子 …………… 1本
- ・みりん …………… 大さじ1 (15g)
- ・酢 …………… 小さじ2 (10g)
- ・醤油 …………… 小さじ1 (6g)



たっぷりきのこの甘辛酢炒め

作り方

- ① きのこはそれぞれ一口大の大きさに切る。唐辛子は種を取り出し、輪切りにしておく。
- ② 切ったキノコを電子レンジで600W 2分加熱する。
- ③ フライパンに移し、油と塩を加え、油をなじませるように炒める。
- ④ 油が回ったら唐辛子、みりん、しょうゆを加え、水気を飛ばしながら炒め、完成。

- ・秋の味覚であるきのこは食物繊維、ビタミンたっぷり! 日頃の食生活で不足しがちなこれらの栄養素を積極的に取り入れましょう。
- ・鶏肉や豚肉等を加えて炒めても◎。身体を作るのに必要なたんぱく質を補えます。
- ・冷蔵庫で2-3日間日持ちします。まとめて調理して毎日取り入れましょう。

こんな意見をいただきました

いただいた ご意見

赤ちゃんの授乳
やオムツ交換する
場所が少なく困っ
ています。

ご意見ありがとうございます。

授乳する場所は小児科外来にあります
が、その他は職員にお声かけいただき空
いている場所をお願いしています。本館
2階産科外来に授乳やオムツ交換もでき
る簡易のお部屋(ママロ)を設置してあり
ます。ぜひ、ご利用ください。

対応



磐田市立総合病院

〒438-8550 静岡県磐田市大久保512番地3

TEL:0538-38-5000 FAX:0538-38-5050

<https://www.hospital.iwata.shizuoka.jp>



ホームページ
はこちら



インスタグラム
はこちら



フェイスブック
はこちら